赤ちゃんの四季（63）　平成28年秋

世界に一つだけの花

SMAPの代表的な歌に、「世界に一つだけの花 (2003)」があります。その歌詞には、一人一人が個性を大切にというメッセージが込められています。没我的な会社人間ではなく、フリーターとして自分の人生を送りたいという当時の時代背景から、若者たちのこころをとらえたものと思われます。

教育界では「個性の尊重」という言葉をよく用います。そのときの「個性」は伸ばすべき長所という意味合いですが、「個体差」という意味で用いられる「個性」には、本人にとってプラスになる場合も、マイナスになる場合もあります。同じ個性といっても他人と違うことによって生活に支障がでたり、本人や周囲の人たちが苦痛を感じるときには「障害」とみなされ、治療が必要になります。

慶応義塾大学の安藤寿康教授は、首都圏に住む7,000組もの双子（一卵性と二卵性の両方を含む）に協力してもらい、性格や知能などのさまざまな個性について、遺伝と環境の大きさを推定する双子研究を進めておられます。その結果をみると、「外向性」、「神経質さ」、「知能テストの成績」とくに「空間能力」や「抽象的な論理的推理能力」に与える遺伝の影響は大きく、最大で70％に及ぶそうです。一方、知能テストの中で、「言語性の認知能力」や「学業成績」については、遺伝だけでなく、共有環境、すなわち家庭環境の影響も無視できないこともわかりました。

また、３〜４歳児の研究で、親のしつけが厳しすぎたり、気分次第でムラがあったり、冷たかったりする厳しい環境で育てられると、不安を強く感じたり、落ち込んだりする子どもの感情の変化に個人差が大きく現れるそうです。

「個性」は、遺伝的影響を強く受けてはいますが、同時に環境による影響も大きく、一生涯変わらないものではありません。本人にとって不利な個性を遺伝的にもっていても、まわりの環境が良ければ、その影響を最小限におさえることができるのです。